



危ない場所はどっち「クイズ」

子どもが犯罪に遭わないために、地域で見守りましょう。そのための基礎知識としてクイズを出題しますので、解答にチャレンジしてみてください。正解は裏面（次ページ）を参照してください。



（問１）住宅編



A. 子供の目線より高い塀に囲まれた家

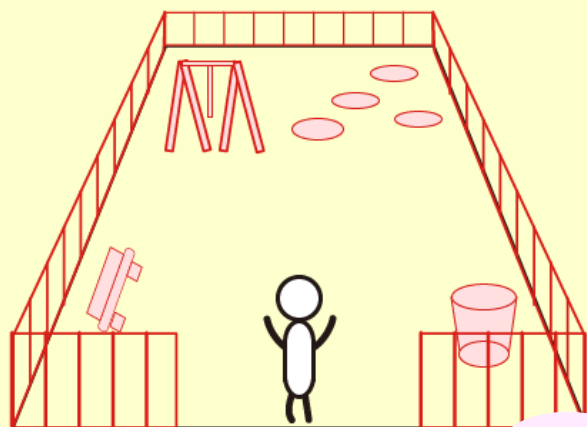


B. 低い垣根や植栽に囲まれた家

（問２）公園編



A. 木に囲まれた荒れた公園



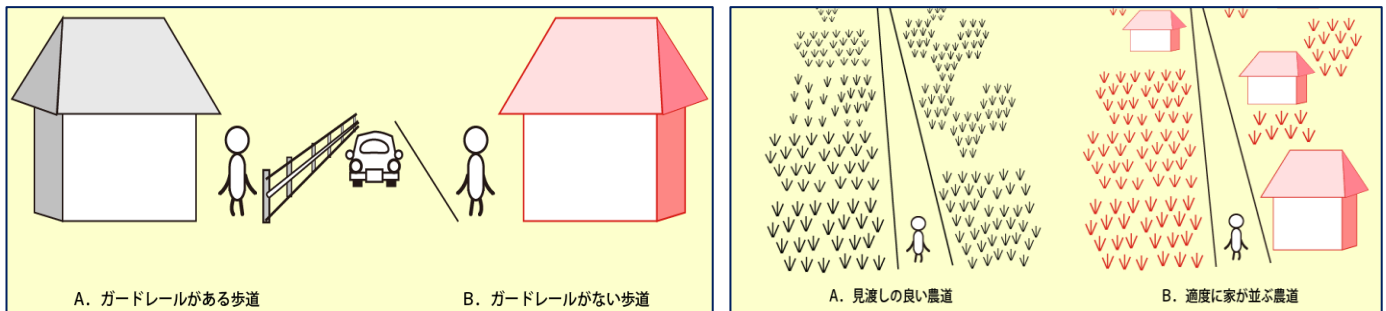
B. フェンスに囲まれた管理された公園

本稿掲載クイズの出典元：

問１は、SASENAI MEDIA 犯罪学者小宮信夫教授監修の「子どもと学べるイラストクイズにチャレンジ」より

問２及び問３は、地域安全マップ指導者養成プログラムの「どちらの場所が危ない？」より

（問３） 通学路編… 2問です



①

②

上記①と②の2問をそれぞれ回答してみてください

解答編

（問１） 危ないのは「A」

一目見ると、大して変わらない風景ですが、Aの画像はそれぞれの家の塀に高さがあり道路の様子が分かりにくくなっています。そのため犯罪を企てている人に「目撃されにくい」と思わせてしまいます。一方、Bには塀がある家もあるが、そこまで高くなかったり、隙間が多いため家の中から道路の様子が分かりやすいです。したがって、Aの方が見えにくいいため、Aの方が危険ということになります

（問２） 危ないのは「A」

高い木に囲まれた見通しの悪い公園は、死角が多く見えにくい場所です。施設の落書きやゴミの散乱は、不十分な管理体制や地域の無関心を示すサインです。そんなサインがあると、犯罪を阻止しようとする力が弱くなります。「A」はまさに、心理的に見えにくい（知らないふり）場所であり、犯罪者に都合の良い場所といえます。

（問３の①） 危ないのは「B」

歩道にガードレールがあると、瞬時に子どもを無理やりに車に引き込んだり声がけをすると、周囲に気づかれやすくなります。ガードレールがあると標的である子供に接近しにくくなるので、入りにくい場所になります。ガードレールが無ければ、犯罪者にとってそこは入りやすい場所になります。

（問３の②） 危ないのは「A」

見渡しが良く死角がない場所でも、まわりに家が無ければ、そこは見えにくい（他から気づかれ難い）場所です。人通りが無い道も同様で、助けを求めても誰にも聞いてもらえません。そんな場所は、誰にも見られずに犯行に及ぶことができる場所であると、犯罪者は考えます。